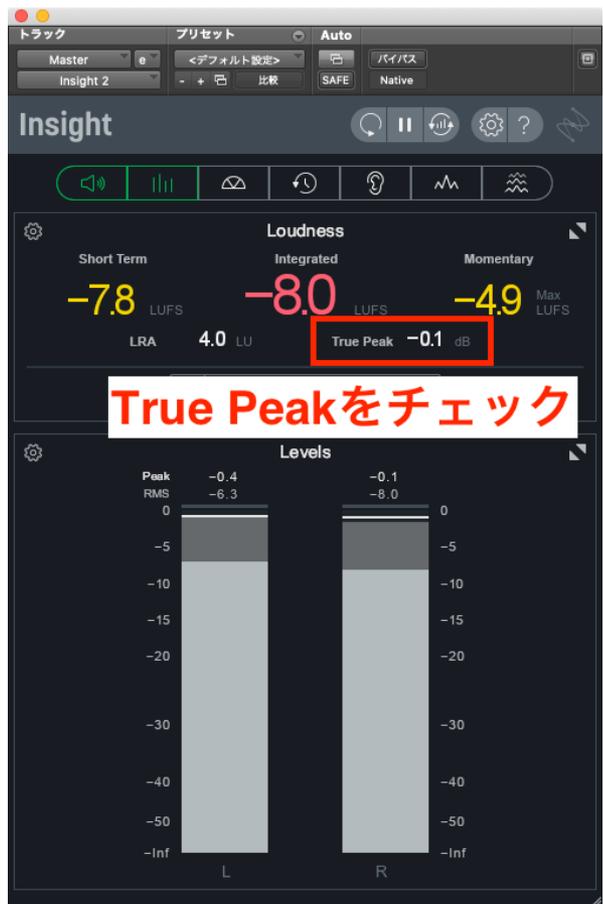


① マスターデータ書き出し時の チェックポイント

マスターデータ書き出し時のチェックポイント

- ① True Peakの値
- ② サンプリングレート & ビットレート
- ③ ディザリング

① True Peakの値



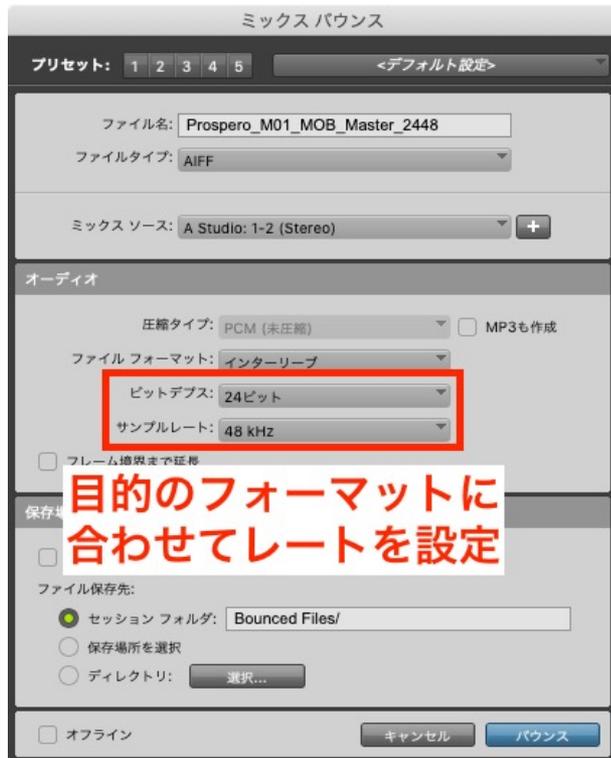
ラウドネスメーター上のTrue Peakの値をしっかりと確認。

CDなどの非圧縮フォーマットの場合は-0.1~-0.5dBTP程度。

音楽配信など圧縮形式でのリリースを想定する場合は、-1.0dBTP以上のTrue Peakを確保する必要がある。

これを超えている場合は再度音圧の調整を。

② サンプリングレート & ビットレート



楽曲をリリースするフォーマットによって、求められるサンプリングレート & ビットレートは異なるため、それぞれのフォーマットに合わせて適切な値を設定する。

	サンプリングレート	ビットレート
CD	44.1kHz	16bit
配信用 or ハイレゾ用	44.1kHz / 48kHz / 88.2kHz / 96kHz / 176kHz / 192 kHz	16bit / 24bit

③ ディザリング

ディザリングとは、ビットレート変換に伴う量子化ノイズを軽減するもの。24bitなどの高ビットレートから16bitなど低ビットレートへ変換時に発生する「量子化ノイズ」に、「ディザノイズ」と呼ばれる特殊なノイズを加えて干渉させることで、互いを目立たなくする。

【ディザリングの方法】

- 「ディザ」プラグインをエフェクト最終段にインサート
- リミッター／マキシマイザープラグインに搭載された「ディザ」機能を使用
- バウンス時にディザリングオプションを選択（DAWに依存）

